

## 平成12年度演習林年報

<https://doi.org/10.15017/18594>

---

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）。2000, 2002-03-29. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン：  
権利関係：

## IV. 福岡演習林

### A. 活動概要

#### 1. 研究

本年度福岡演習林を利用して行われた主な研究は以下の通りである。

- (1) 固定試験地（新規設定について）
  - ① スギ樹冠の炭酸ガス固定機能の評価に関する研究（森林生態圏管理学講座）
  - ② 水辺生態系の復元技術に関する研究（森林生態圏管理学講座）
  - ③ 草花による草地の修景管理に関する研究（森林生態圏管理学講座）
  - ④ 省力造林試験（森林生態圏管理学講座）
  - ⑤ 森林流域における水・熱・物質循環に関する研究（森林生態圏管理学講座）
  - ⑥ 森林の手入れとキノコの関係についての試験地（森林生態圏管理学講座）
  - ⑦ 電気インパルス印加が苗木の成長および菌根形成に及ぼす影響（森林生態圏管理学講座）
  - ⑧ 森林表土を利用した注入マットによる植生回復に関する試験（森林生態圏管理学講座）
  - ⑨ ヒノキ林の炭酸ガス固定機能の評価（森林機能開発学講座）
  - ⑩ ケヤキヒトスジワタムシの生態学的研究（動物昆虫学講座）
  - ⑪ ケヤキヒトスジワタムシの天敵について（動物昆虫学講座）
  - ⑫ ケヤキヒトスジワタムシと寄生植物との同時性について（動物昆虫学講座）
  - ⑬ 虫こぶを形成するバラタマバチ属の生態学的研究（動物昆虫学講座）
- (2) 研究調査利用
  - ① 生態系における環境放射能の移動に関する研究（アイソトープ総合センター）
  - ② ハザードマップ（斜面崩壊危険値抽出）に関する研究（森林機能制御学講座）
  - ③ 針葉樹におけるノルリグナン類の生成に関する研究（森林機能開発講座）
  - ④ 森林生物資源からの育毛活性化成分の探索（2件：森林機能開発講座）
  - ⑤ 根材の木部形成に関する研究（森林機能開発講座）
  - ⑥ スギ肥大成長の気節性に関する研究（森林機能開発学講座）
  - ⑦ マツ枯損防止技術の開発（森林機能開発学講座）
  - ⑧ 松くい虫発生予察調査（福岡県森林林業技術センター）
- (3) 研究資材提供
  - ① 森林生産資源からの育毛活性化成分の探索（森林機能開発講座）
  - ② 樹木の病害に関する研究（福岡県森林林業技術センター）
  - ③ スギ林分内の動的ヤング率のバラツキ（森林機能開発学講座）
  - ④ 竹材の高耐久化に関する研究（2件 生物材料機能学講座）
  - ⑤ マテバシイのヒートパルス速度と樹液流速の較正（森林生態圏管理学講座）
  - ⑥ マテバシイの生理特性の把握（森林生態圏管理学講座）
- (4) データの提供
  - ① 大気降水物に含まれる放射性核種の季節変動（アイソトープ総合センター）
  - ② 樹木年輪の硫黄同位体化について（理学研究科・状態解析科学講座）
  - ③ アカマツの肥大成長の季節変動（森林機能開発学講座）

## 2. 教育・来訪者など

### (1) 森林生態圏管理学概論

森林科学コースの2年生を対象に11月に実施した。この教育の特徴は、フィールドを活用し、合宿を伴う集中講義形式を採用しているところにある。学生の森林に対する知見を深める上できわめて有効であるが、同時に、コース別に分かれて間もない時期にあり、相互確認と連帯を誓うという講義外の効果も出ている。なお、参加者は41名であった。

### (2) フィールド科学研究入門（物質循環プログラム）

P&P関連の教育プログラムである。3演習林で実施した全学共通教育科目（個別教養科目）の一つとして福岡演習林で実施した教育である。7月に1週間、演習林に合宿し、集中授業及び観察・分析等を行った。参加者は30名である。

### (3) 実習

学生実習は多様化している。九州大学の学生を対象に森林工学実習（8月）、造林学実習（13年3月）、森林防災学実習（13年3月）が行われ、国土建設専門学校の学生を対象に樹木学実習（4回：6～10月）、造園学実習（4回：5～10月）、緑地環境調査実習（6月）、造園学実習（13年2月）が行われ、また、福岡女子大学の学生を対象に環境野外実習（7月）が行われた。

### (4) 公開講座

8月に小学校の先生を対象に、「こどもに伝える自然環境のしくみー楽しく里山森林体験ー」と題する公開講座を開講した。森林の働きについての基礎的な知識に関する講義と実習を行う講座であった。

### (5) 来訪者等

福岡演習林への来訪者は合計7,877人、うち九大関係者が815人、他大学及び研究機関が932人、県などの林業関係者が165人、一般が5,965人であった。

また、早良実習場には合計3,977人、うち九大関係者が272人、他大学及び研究機関が235人、林業関係者が223人、一般が3,247人であった。昨年と比較し、少し減っている。

## B. 試験調査資料

## 1. フェノロジー調査

全国大学演習林協議会の共同研究による樹木フェノロジー調査が9・10林班内のミズナラ、クヌギ、コナラ、ソメイヨシノ、コブシ、ポプラの6樹種各1本(ポプラのみ3本)を対象に行われている。継続して2000年度の開葉、開花等の状況を調査した結果は下表のとおりである。

(井上幸子)

表-1 標本木の開葉、開花、紅葉及び落葉日

| 樹種     | 開葉                        | 開花                        | 紅葉          | 落葉           |
|--------|---------------------------|---------------------------|-------------|--------------|
| ミズナラ   | 2000. 4. 3<br>2001. 3. 26 |                           | 2000. 7. 10 | 2000. 11. 20 |
| クヌギ    | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 2  | —<br>2001. 4. 9           | 2000. 10. 2 | 2001. 3. 26  |
| ソメイヨシノ | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 9  | 2000. 4. 3<br>2001. 3. 26 | —           | 2000. 11. 6  |
| コナラ    | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 9  | —<br>2001. 4. 9           | 2000. 7. 31 | 2001. 3. 26  |
| コブシ    | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 2  | 2000. 4. 3<br>2001. 3. 26 | 2000. 7. 31 | 2000. 12. 25 |
| ポプラ 1  | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 9  |                           | 2000. 10. 9 | 2000. 12. 11 |
| ポプラ 2  | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 9  |                           | 2000. 10. 9 | 2000. 12. 11 |
| ポプラ 3  | 2000. 4. 3<br>2001. 4. 9  |                           | 2000. 10. 9 | 2000. 12. 11 |

注1：樹木全景写真に基づく判定

注2：開葉、紅葉、開花は開始日、落葉は終了日

注3：ソメイヨシノに関する紅葉日は2000. 6. 12からの虫害により判定不可能